平成24年11月29日　　初号

広島 HIROSHIMA News Paper

岡山県立
Okayama Prefectural
倉敷天城中学校
Kurashiki Amaki
Junior High School
三宅晟斗
Miyake Akito

人類への警鐘　"原爆ドーム"

Wake-up call to humanity　"Hiroshima Peace Memorial"

1945年8月6日、広島市街の建物は多くの命と共に姿を消した。
August 06, 1945, Building in the city of Hiroshima had disappeared along with the lives of many.
しかし、その中で奇跡的に倒壊を免れた建物がある。
But, There is a building that miraculously survived the collapse in the.
それが、原爆ドームだ。(当時 広島県産業奨励館)
It is the Hiroshima Peace Memorial. (At that time: Hiroshima Industrial Promotion Hall)
現在も原爆ドームは残されていて世界遺産に登録されている。
It is still present, and It is a World Heritage Site.
では、なぜ登録されたのだろうか?
In, I wonder why it has been registered?
それは、原爆ドームが原爆投下の悲惨さを伝えると共に、
Because there is a symbol that continues sue for peace
平和を訴え続けるシンボルとされているからだ。
With the It convey the horrors of the bombing.
私情が交わるが、今私達にできることは、二度とあのよ
Personal feelings but intersect, I think that we can do now
うな悲劇は繰り返さず、悔しさを忘れないことだと私は思う。
Is I can't forget the mortification tragedy like that again does not repeat.

Hiroshima Peace Memorial

心の喜びとやすらぎの場"ひろしま美術館"

Peace of mind and place of joy　"Hiroshima museum of art"

原爆投下から30数年の間、広島は復興の道をただひたすらに歩んでいた。
Than 30 years from the bombing, Hiroshima I was just plain walk in the way of reconstruction.
そして、その道程の中で求められていたのは、「心の喜びとやすらぎの場」であった。
And, Had sought in the process of which was「Peace of mind and place of joy」.
1978年11月3日、人々の思いに応えるべくひろしま美術行館は誕生した。
November 03, 1978; Hiroshima Museum of Art was born to meet the desire of the people.
そこは、原爆被害者への鎮魂の祈りと平和への願いが込められていると共に、数々の芸術作品が収められ
There are a number of works of art are housed has been put together with the wish of peace and requiescat
ている。フランス印象を中心としたヨーロッパ近代美術や明治以降の油彩画がある。
of bomb victims. There are oil paintings and modern art in Europe since the Meiji era, mainly the impression France.

主な展示作品 Major Works

ゴッホ Gogh「ドービニーの庭」
ピカソ Picasso「カンカン」
モネ Monet「セーヌ河の朝」
ミレー Millet「刈り入れ」

ひろしま美術館 Hiroshima museum of art

最後に…

私は広島を訪れ、原爆の言葉では言い表せないような悲惨さ、平和の貴さなど、様々なことを学びました。また、今自分の過ごしている、友達と笑い合い、したいことができる環境がとても恵まれており、大切にすべきものだと感じました。これから私は、二度と多くの人が悲しむことがないよう、この恵まれた環境をより良くしていくことに尽くそうと思います。

また、私がこの新聞を英語を用いて書いたのは、日本だけでなく世界へ思いを伝えたかったからです。この思い、世界へ届け…